

授業コード	8000401	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	経営科学特論				
シラバス執筆(全員)	韓 尚秀				
シラバス執筆(主)	韓 尚秀				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ある問題に直面した人間は、直感や経験に頼って問題を分析する傾向が強く、円滑な解決に至らないときが多い。問題を理論や実証によって体系的に分析して不変の解決策を提案する必要がある。本講義では、人間の問題解決プロセスと科学的なものを比較しながら学び、ビジネスの場で指導力を発揮できる意思決定能力・知識・技能を身につけることを目標とする。具体的には、経営科学に関する種々の問題を取り上げ、モデリングし、代表的な科学的問題解決手法を勉強した後、その効率性と限界性を同時に体験させる。つまり、現実問題とモデルには隔たりがありうる。そのモデル上で求められた解決策に基づいて現実問題を解決しないといけない人間は、最も大変な立場に置かれていることを認識させ、柔軟に問題を解決するソフト科学の成果や試みを学習する。

到達目標

1. 科学的な問題解決のプロセスを説明することができる。
2. ビジネスの場で指導力を発揮できる意思決定能力を身につける。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：AHPとその応用
 内容・方法：階層意思決定法理論を取り上げ、提案されている手法の基本原則について講義する。
- 【第2回】
 テーマ：DEAとその応用
 内容・方法：包絡分析法理論を取り上げ、提案されている手法の基本原則について講義する。
- 【第3回】
 テーマ：ANPとその応用
 内容・方法：ネットワーク分析法を取り上げ、問題解決のためのモデリング、定式化について講義する。
- 【第4回】
 テーマ：スケジューリングとその応用
 内容・方法：解決すべき問題のモデリング、定式化された簡略モデルをエクセルのGraphを用い解く。さらに、simplex Methodとの比較しながら、手法の原理を探る。
- 【第5回】
 テーマ：ファジィ理論Iとその応用
 内容・方法：不確実性理論を取り上げ、曖昧さと確率にもとづく手法を原理を探る。
- 【第6回】
 テーマ：ファジィ理論IIとその応用
 内容・方法：不確実性理論を取り上げ、曖昧さと確率にもとづく手法を原理を探る。
- 【第7回】
 テーマ：リスク付きPERTとソルバーの利用法
 内容・方法：典型的なリスク付きプロジェクトスケジューリング問題を取り上げ、エクセルのSolverを用い解く。
- 【第8回】
 テーマ：遺伝アルゴリズムIとその応用
 内容・方法：典型的な遺伝アルゴリズムを取り上げ、提案されている手法の基本原則について講義する。
- 【第9回】
 テーマ：遺伝アルゴリズムIIとその応用
 内容・方法：典型的な遺伝アルゴリズムを取り上げ、提案されている手法の基本原則について講義する。
- 【第10回】
 テーマ：SCMとその応用
 内容・方法：物流問題を取り上げ、サプライチェーンの概念と管理手法を講義する。
- 【第11回】
 テーマ：MRPとその応用
 内容・方法：典型的な最大流問題と最短経路問題を取り上げ、提案されている手法の基本原則について講義する。
- 【第12回】
 テーマ：専門書購読I
 内容・方法：講義した内容に関する洋書を輪講形式で読んで理解を深める。
- 【第13回】
 テーマ：専門書購読II
 内容・方法：講義した内容に関する洋書を輪講形式で読んで理解を深める。
- 【第14回】
 テーマ：発表
 内容・方法：専門書購読で割り当てられた部分を整理し、発表する。
- 【第15回】
 テーマ：まとめ
 内容・方法：まとめ。

事前事後の学習

【第1回】

- ①事前学修課題：講義概要を予め読んでおくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第2回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第3回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第4回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第5回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第6回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第7回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第8回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第9回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第10回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第11回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第12回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第13回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第14回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。

【第15回】

- ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
 - ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。
- 注意：毎回の授業において、2時間の事前学習と2時間の事後学習が必要です。

課題に対するフィードバックの方法

OIUUNIPAのレポート機能を活用する。

成績評価の方法・基準(方針)

平常点50%、レポート点20%、期末レポート点50%で評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	平常点	1
授業外での評価	20	レポート	2
定期試験	0	なし	なし
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート	1, 2
その他	0	なし	なし

テキスト 必要に応じて資料を配布する。

参考書 必要に応じて資料を配布する。

授業コード	8000601	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	経営統計学特論				
シラバス執筆(全員)	植松 康祐				
シラバス執筆(主)	植松 康祐				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

経営活動に必要な統計手法を学ぶ。まずは、基礎的な統計学の基礎を確認する。特に、仮説検定の考え方は、多変量解析を行う際に必要な概念である。一般的な統計学は、一変量のデータを扱うが、経営においては多変量を扱うことが必要となる。そこで、多変量解析の多くの手法とその原理を学ぶ。具体的な事例をもとに、Excelにて実践的に分析することにより、理解を深める。

到達目標

1. 統計的基礎知識の習得
2. 応用領域の把握
3. 統計ソフトの活用

授業計画

理論的な背景を学ぶと併に、実際での活用を体験する。

- 【第1回】 基本的経営統計の手法（色々な経営指数）
- 【第2回】 基本的経営統計の手法（検定・推定）
- 【第3回】 基本的経営統計の手法（分散分析）
- 【第4回】 重回帰分析の概要と手法
- 【第5回】 重回帰分析の実データによる実習
- 【第6回】 判別分析の概要と手法
- 【第7回】 主成分分析の概要と手法
- 【第8回】 主成分分析の実データによる実習
- 【第9回】 因子分析の概要と手法
- 【第10回】 因子分析の実データによる実習
- 【第11回】 大企業の収益、平均年齢、年収などの実データの分析を検討
- 【第12回】 分析結果のレポート化
- 【第13回】 実験計画問題（2元配置、3元配置）
- 【第14回】 管理図と抜き取り検査
- 【第15回】 総合演習

事前事後の学習

事前学習については、各テーマに関する情報を配布するので、熟読してくること。事後学習に関しては、必ず、課題を出すので、その課題を実行することにより、理解を深める。

課題に対するフィードバックの方法

課題提出において、内容をフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回の課題とその成果によって評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	講義内での理解を測る	1, 2, 3
授業外での評価	35	課題提出による評価	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	資料やデータは配布する
参考書	講義中に示す
履修条件・他の科目との関連	研究調査特論を必ず受講していること。その他統計学を受講している方が望ましい。

授業コード	80000701	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	研究調査法特論				
シラバス執筆(全員)	植松 康祐				
シラバス執筆(主)	植松 康祐				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

研究調査法とは、学術的なデータや文章の検索方法を理解し、論文資料として適切な文献を見つけ出すプロセスを学習する。特に、盗用や著作権侵害とならないような配慮について、普段からデータの整理方法について配慮する習慣を身につける。

到達目標

1. 論文となりうるテーマの選択ができ、論文としてのアウトラインが構成できることが目標である。
2. 研究発表において、聴衆に対してわかり易いプレゼンテーションを行うことができるようになることを目標とする。
3. 論文盗用とならないための脚注や参考文献の表示方法を実習を通して学ぶ。

授業計画

- 【第1回】論文とは何か？
内容・方法：どのような要件を備えているのものが論文であり、レポートや調査報告とは何が異なるのかを学ぶ。
- 【第2回】論文の要約する技術
内容・方法：課題として出された論述文を、1ページでまとめる。更に、それを10行以内集約することで、その本質を抽出する技術を養う。
- 【第3回】論文の本質の抽出
内容・方法：前回の課題で出された論文の要約を、5行以内に集約して、タイトルをつける。その集約に至った理由を付加して発表する。
- 【第4回】パワーポイントを使ってのプレゼンテーション
内容・方法：論文の内容を相手に伝えるためのプレゼンテーション技術を学習する。パワーポイントを作成するときの注意点や話す速度など、実習を通して学習する。
- 【第5回】参考文献の検索方法（図書、論文）
内容・方法：図書館を使用しての参考文献の検索方法や公開されている白書などの活用を学ぶ。
- 【第6回】参考文献の検索方法（インターネット）
内容・方法：インターネットを使ってのキーワード検索や政府の公的な機関のデータ取得方法を学ぶ。
- 【第7回】参考文献の引用方法とそのルール
内容・方法：これまでの2回で調査した参考文献を使って報告書を書く。その際に、脚注や引用のルールを学習する。
- 【第8回】ミニ論文作成実習のための準備
内容・方法：事前に指定した課題、参考図書、Web上のサイトを与える。それを活用した論文を作成する準備をする。
- 【第9回】ミニ論文作成実習
内容・方法：論文の要件を満たすように、参考文献を活用した論文を作成する。
- 【第10回】ミニ論文の完成
内容・方法：前回の作業をベースに、論文としての形式を整え、完成させる。
- 【第11回】ミニ論文のパワーポイントを使っての発表会
内容・方法：各自準備したパワーポイントを基に、発表を行う。
- 【第12回】発表会の反省会
内容・方法：それぞれの発表の長所、欠点を指摘して、改善に役立てる。
- 【第13回】研究倫理についての学習
内容・方法：研究者にとって必要な研究倫理について学習する。
- 【第14回】研究倫理を犯さないための技術
内容・方法：知らずに研究倫理を犯している場合があることを学習して、それらを防ぐための方法を学習する。
- 【第15回】総合演習
内容・方法：これまで学習したことを総合的に復習する。

事前事後の学習

事後の学習に重きを置き、必ず、各回の内容を理解するための課題の提出を求める。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題をフィードバックして、理解を深める。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回の課題の理解で評価を行う。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	講義内での発表などを評価する	1, 2, 3
授業外での評価	35	課題の提出で評価する	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	必要な資料は、すべて配布する。
参考書	論文の教室 戸田山和久著 NHKブックス1194 NHK出版
履修条件・他の科目との関連	必修科目であるので、必ず受講すること。

授業コード	80001301	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	会計学特論 [遠隔リアルタイム]				
シラバス執筆(全員)	市川 直樹				
シラバス執筆(主)	市川 直樹				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

会計学特論は、大学で学習してきた会計の知識や技法を基礎として、会計責任を果たす重要性について確認するとともに、連結会計に関する基礎的な知識と技法の習得に重点を置き、利害関係者に会計情報を提供する能力と技法、提供された会計情報を効果的に活用する資質や能力を育成することを目指します。

90年代以降、企業は単体で活動することはなくなり、企業グループによって活動しています。そうした実態を把握するためには、企業単体の個別財務諸表から企業グループとしての連結財務諸表による情報の開示が必要であり、このような経営の実態を理解するためには連結会計に関する知識が不可欠となります。このため、連結会計は、平成9年に義務化され、会計報告は連結財務諸表中心の報告に変わりました。さらに、平成11年にはセグメント情報に関する会計基準が設定され、連結財務諸表による情報の充実が行われています。

会計学特論では、連結会計の基本的な考え方や技法を習得し、実践されている企業会計を理解できるようにするため、簡単な連結財務諸表を作成したり、これを分析したりする技法を習得し、連結情報を活用できる能力や態度を養成します。このため、会計学特論では、①企業会計の概要と問題点、②企業結合の概念と企業結合会計の方法、③連結財務諸表の基礎となる本支店会計、④連結会計、⑤連結財務諸表の分析の基礎、などを主な内容として構成します。

到達目標

この科目では、実践的・体験的な学習活動を通して、連結情報の提供と活用に必要な資質と能力を養成することを目指します。

- ① 個別財務諸表から復習し、その問題点を理解します。
- ② 連結会計に関する基本的な知識や考え方を体系的・系統的に理解するとともに、これに関連する技法を身につけます。
- ③ 連結会計に関する法規や基準、これにもとづく会計処理の方法の妥当性と課題を考察します。
- ④ 連結情報を分析する技法と能力を養成します。
- ⑤ 会計責任を果たす能力と態度の向上を目指してみずから学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養成します。

授業計画

第1回 授業オリエンテーション
日本のM&Aの特徴について考察します。
日本企業をとりまく経済環境変化、日本のM&Aの目的、日本のM&Aの形態と動向

第2回 伝統的な企業会計
伝統的な企業会計の意味や方法について考察します。
企業会計の内容、企業会計の意味企業会計の基本目的、期間損益計算の基準と方法、発生主義会計の方法、伝統的な財務諸表の体系

第3回 企業結合会計
伝統的な合併会計および子会社取得会計の会計方法とその問題点および企業結合の概念について考察します。
伝統的な企業結合会計の会計方法、合併会計、子会社取得会計、企業結合の意義

第4回 連結財務諸表の意義
連結会計の必要性と意義について考察します。
会計ビッグバンと連結会計、連結会計の必要性と導入、連結財務諸表の意義

第5回 連結財務諸表原則
連結会計基準の体系およびについて考察します。
連結財務諸表原則の体系、連結財務諸表基準の一般原則、連結財務諸表原則の一般基準（連結基礎概念、連結子会社の判定基準

第6回 本支店会計と連結会計（本支店間の期中取引）
本支店会計の意義と問題点、本支店間取引について考察します。
本支店会計制度とは、本支店間の取引の処理、本支店会計の問題

第7回 本支店会計と連結会計（本支店合併財務諸表の作成）
本店および支店の財務諸表の合併の問題について解説する。
未達取引の整理、内部取引の除去、内部未実現利益の除去

第8回 支配獲得日の資本連結（完全子会社）
完全子会社の場合の連結財務諸表の作成について考察します。
連結とは、資本連結、連結財務諸表の作成手続き、支配獲得日の連結、支配獲得日における連結貸借対照表の作成手続き、連結財務諸表の作成

第9回 支配獲得日の資本連結（部分子会社）
部分子会社の場合の連結財務諸表の作成について考察します。
非支配株主持分、子会社の資産・負債の時価評価、支配獲得日における連結貸借対照表の作成手順

第10回 支配取得日後の連結
支配取得日後の連結手続きについて考察します。
子会社の資産・負債の評価替え、親子会社の個別財務諸表の合算、連結開始仕訳、当期の連結修正仕訳、連結財務諸表の作成

第11回 連結会社間の取引1（資本連結）

連結会社間の取引について考察します。
連結会社間の内部取引、連結会社間の債権・債務の相殺・消去、連結財務諸表の作成手順（未達取引の処理など）

第12回 連結会社間の取引2（成果連結）

純資産の部の内容、貸借対照表の見方について考察します。

連結損益計算書、内部取引と内部未実現利益の控除の処理

第13回 連結財務諸表の作成と表示方法

貸借対照表の見方に従って財政状態を分析する方法、資本の構成の分析、自己資本純利益率について考察します。

連結財務諸表の作成手続き、連結財務諸表の表示形式

第14回 連結情報の利用

資本利益率、総資本経常利益率とその展開による分析方法について考察します。

連結情報の利用の目的と利用事例（有価証券報告書）、連結財務諸表分析に固有な指標と利用事例、株式市場での連結指標

第15回 会計学特論のまとめ

連結会計全体について復習する。

連結会計の意義、連結基礎概念、連結子会社の判定基準、連結財務諸表の作成、連結情報の利用方法

事前事後の学習

授業は講義形式ですが、例題にもとづいて計算したり、これを仕訳したり、整理したりするなどの作業を伴う演習科目です。

事前学習では、毎回の講義を積み重ねていくため、必ず、これまでの講義を復習して授業に臨んでください。また、Moodle上のプリントを印刷して授業内容を確認し、内容や用語などについてインターネットや参考書などで調べて授業に臨んでください。

事後学習では、例題や演習問題を繰り返し行い、参考書などにより補足して完全に理解できるまで復習してください。また、Moodle上の演習問題の解答が100%の正解率となるように努力するなどの主体的に学習をしてください。

第1回 授業オリエンテーション 事前学習

授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 1.0 時間

事後学習

オリエンテーション説明内容にもとづき心理学の基礎知識を自修し、ノートを準備する 1.0 時間

第2回 伝統的な企業会計

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間

第3回 企業結合会計

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間

第4回 連結財務諸表の意義

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間

第5回 連結財務諸表原則

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間

第6回 本支店会計と連結会計（本支店間の期中取引）

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間

第7回 本支店会計と連結会計（本支店合併財務諸表の作成）

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間

第8回 支配獲得日の資本連結（完全子会社）

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間

第9回 支配獲得日の資本連結（部分子会社）

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間

事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間

第10回 支配取得日後の連結

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間
事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間
第11回 連結会社間の取引1（資本連結）

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間
事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間
第12回 連結会社間の取引2（成果連結）

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間
事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題および自習課題を繰り返し行ってください。2.5時間
第13回 連結財務諸表の作成と表示方法

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間
事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間
第14回 連結情報の利用

事前学習

Google Classroomで配布したプリントを印刷し、一読したうえで、用語や内容を調べてください。1.5時間
事後学習

配布したプリントにより例題を復習し、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間
第15回 会計学特論のまとめ

事前学習

第2回から第14回までのプリントを復習し、企業会計に関する基本的な知識や考え方をまとめる。1.5時間
事後学習

例題などにより、これまでの講義を振り返り、ビジネスと会計情報との関係について検討する。2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

例題については授業内で解説します。

演習問題についてはMoodleにより実施するためMoodleによりフィードバックされます。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される演習問題40点と、定期試験（Moodleによる筆記試験）の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。なお、定期試験の受験がない場合には、評価の対象とせず、「K」評価となります。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	演習問題(Moodle)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	60	・定期試験(Moodleによる筆記試験)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しません。
------	--------------

参考書	「図解&設例 連結会計の基本と実務がわかる本」 「初めて学ぶ連結会計の基礎」 「エッセンシャル連結会計」 「これでわかった！ 連結決算 会計の達人が教える入門の入門」 「連結会計の集中特講」 「やさしく学べる連結会計」 など
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	電卓必須(12桁の電卓推奨、携帯電話の使用は不可)。 ネット上で試験を行います。 カメラが使える環境を用意してください。
---------------	--------------------------------------------------------------------

授業コード	80001701	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	公共経済特論				
シラバス執筆(全員)	植松 康祐				
シラバス執筆(主)	植松 康祐				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

国のシステムを構成する主体を大きく「消費者、企業、政府」の3つに分類することが出来る。その中で、人の行動、企業の行動、政府の行動は、どうあるべきかを議論したい。特に、政府の役割が重要となる公共経済の仕組みについて学ぶ。特に、所得再配分の仕組みと経済の安定性に関わるマクロ経済政策（財政・金融政策）に関しては議論する余地がある。

到達目標

国の役割として特に重要なものは、治安維持、上下水道、治水・治山、国防、公共交通機関、公教育、社会保障などである。すべて政府で出来るものではないので、民間活動との住み分けが問題となる。政府がどこまで介入すべきなのかを、経済学の立場からその限界を示す。

1. 公共性の概念の理解
2. 国の方針と国民の行動
3. 経済安定に関する国の財政政策への理解

授業計画

毎回、各テーマに対して、事前の調査と予習を求める。

各テーマは

1. 社会保障（年金）
2. 社会保障（医療）
3. 社会保障（福祉）
4. 治安維持
5. 公共交通機関
6. 治水・治山
7. 災害対策
8. 治安維持

事前事後の学習

各自得た事象やデータを検討して、理解を深める。

課題に対するフィードバックの方法

それぞれの検討材料を元に、議論をすることで、フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

事前の準備と発表等を評価とする。特に、講義での議論を中心に評価を行う。議論に参加できるだけの知識を、事前に準備することが重要となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	事前の調査での考え方をまとめてくる。	1, 2, 3
授業外での評価	40	事前の予習を評価する。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	資料や課題を講義中に提示する。
参考書	講義中に提示する。
履修条件・他の科目との関連	特に、指定はしない。

授業コード	80001801	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	情報科学特論				
シラバス執筆(全員)	安達 康生				
シラバス執筆(主)	安達 康生				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

IT（情報技術）は、現代社会のさまざまな分野の活動に大きなインパクトを与えつつある。IT技術が発展した背景には、ハードウェアとしての半導体技術の発展があるが、これらの技術を理論面から支えてきた情報理論の存在も見逃すことはできない。本講義では、情報理論の基礎から応用までを概観する。

到達目標

1. 情報技術の基礎となっている情報理論について理解する。

授業計画

- 第1回 情報伝送の基礎知識：情報技術の基礎的な内容の復習と確認をする。
- 第2回 情報量の数量化：情報量の数量化の方法について説明する。
- 第3回 情報源符号化：情報源符号化の方法について説明する。
- 第4回 情報源符号化：情報源符号化の方法について説明する。
- 第5回 通信路符号化：通信路符号化の方法について説明する。
- 第6回 誤り検出・訂正符号：誤り検出・訂正符号の方法について説明する。
- 第7回 伝送路符号化：伝送路符号化の方法について説明する。
- 第8回 アナログ信号の情報量：アナログ信号の情報量について説明する。
- 第9回 命題論理とブール代数：命題論理とブール代数について説明する。
- 第10回 ブール代数とリレー回路：ブール代数とリレー回路について説明する。
- 第11回 論理関数の標準化(1)：論理関数の標準化の方法について説明する。
- 第12回 論理関数の標準化(2)：論理関数の標準化の方法について説明する。
- 第13回 数の表現と演算、加算器：数の表現と演算、加算器回路について説明する。
- 第14回 演算の遂行と命令のサイクル：演算の遂行と命令のサイクルについて説明する。
- 第15回 プログラミング言語とその進化：プログラミング言語の歴史とその変遷について説明する

事前事後の学習

〈事前学修課題〉
事前に配布した資料を読んでおくこと。
〈事後学修課題〉
講義の中で説明した内容をまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間の最初に前回の復習を解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

講義毎に理解の確認を行い、最終レポートにより評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内での理解の確認	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	最終レポート	1
その他	0		

テキスト 授業中にプリントを配布する。

参考書

履修条件・他の科目との関連 必ず講義に出席すること。

授業コード	80001901	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	情報処理特論				
シラバス執筆(全員)	岡本 容典				
シラバス執筆(主)	岡本 容典				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

近年、スマートフォンに代表されるモバイルデバイスの急速な普及により、モバイルアプリケーション開発に対する需要が高まっている。本授業ではプログラミングの基礎から始め、モバイルアプリの開発手法について解説する。

到達目標

1. プログラミングの基礎が理解できる。
2. モバイルアプリケーションを開発できる。

授業計画

1. モバイルアプリとは
2. 開発環境の構築
3. プログラミングの基礎 (1)
4. プログラミングの基礎 (2)
5. プログラミングの基礎 (3)
6. プログラミングの基礎 (4)
7. プログラミングの応用 (1)
8. プログラミングの応用 (2)
9. プログラミングの応用 (3)
10. プログラミングの応用 (4)
11. モバイルアプリの開発 (1)
12. モバイルアプリの開発 (2)
13. モバイルアプリの開発 (3)
14. モバイルアプリの開発 (4)
15. まとめ

事前事後の学習

毎回の授業で課題を課すので、次回の授業時に提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内の課題については机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す通り、授業期間中に実施される課題と、全授業終了後に実施される定期試験の評価結果に基づき総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業期間中に実施される課題	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施されるレポート試験	1, 2
その他	0		

テキスト	必要に応じてPDFプリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	意欲的に取り組み、予習復習を行うこと。

授業コード	80002101	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	データベース特論				
シラバス執筆(全員)	下條 善史				
シラバス執筆(主)	下條 善史				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

データベースは個人から企業・団体にいたるまで、大量の情報を分類整理し、有効利用していくための強力なツールとして活用される重要なアプリケーションである。しかし同時にデータベースマネジメントシステムは、コンピュータとOSのもっとも高度な機能と性能を要求するシステムであり、それを使いこなすエンジニアはハードウェアからソフトウェア全般にわたる広範で高度な知識を要求されることになる。本講義ではデータベースマネジメントシステムの概要を紹介し、そこに使われるさまざまな技術を解説していく。特にここでは本来巨大なシステムを構成すべきデータベースマネジメントシステムについて解説し、大規模なシステムで起こるさまざまな問題をも捕らえていく。

到達目標

1. データベースに格納されるデータの本質とその管理について理解する。
2. データモデルの意義と、モデル構築の手順を理解する。
3. DBMSの機能とその意義を理解する。
4. DBMSを中心とするデータベースの実態を把握し、そこで起こる様々な事象について理解、分析できる。
5. SQLの構造を理解し、簡単な操作文が構築できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：データベース～その複雑さと、面白さ～
 内容・方法：データ、データモデルについて解説する。
- 【第2回】
 テーマ：データベース～フィールドのデータ型～
 内容・方法：RDBにおけるテーブルの構造の意味と意義を解説する。
- 【第3回】
 テーマ：データ型とインデックス、そして検索
 内容・方法：検索とは何か。それがデータベースにおいてどのような位置にある行為か、詳しく解説する。
- 【第4回】
 テーマ：テーブルの分割と結合、そして正規化
 内容・方法：リレーショナルデータベースの特徴を詳しく解説する。
- 【第5回】
 テーマ：マルチユーザデータベース
 内容・方法：本来のデータベースに求められる性能と、それを実現するためのしくみについて解説する。
- 【第6回】
 テーマ：トランザクションとトランザクション・ログ
 内容・方法：データベース内で処理されているトランザクションについて、詳細を解説する。
- 【第7回】
 テーマ：データベースのライフサイクル
 内容・方法：データベースの誕生から死までを詳細に追ってみる。
- 【第8回】
 テーマ：分散データベース
 内容・方法：コンピュータネットワークを前提とするとデータベースはより強力なものになる。分散データベースを紹介する。
- 【第9回】
 テーマ：SQL
 内容・方法：リレーショナルデータベースの基本であるSQLシステムについて解説する。
- 【第10回】
 テーマ：SQL 2
 内容・方法：リレーショナルデータベースの基本であるSQLシステムについて解説する。
- 【第11回】
 テーマ：SQL 3
 内容・方法：リレーショナルデータベースの基本であるSQLシステムについて解説する。
- 【第12回】
 テーマ：埋め込みSQL
 内容・方法：実際のデータベースアプリケーションがどのように開発されているか、埋め込みSQLの具体例について解説する。
- 【第13回】
 テーマ：データベースのトラブルとリスク
 内容・方法：コンピュータシステムにはトラブルがつきものとも言えるが、特にデータベースはトラブルに損害が伴う場合が多い。データベース上で起こるトラブルの分類と、それに対するリスクマネジメントの考え方を紹介する。
- 【第14回】
 テーマ：NoSQL

内容・方法：昨今、「SQL以外のデータベース」も注目を浴びている。ここではNoSQLの考え方を紹介し、いくつかの事例でSQLデータベースとそれ以外の使い分けを考える。

【第15回】

テーマ：まとめと感想

内容・方法：データベース全般についてまだまだ言い足りないことがある。逆に学生からの感想も聞いて、データベースシステムへの印象を整理する。

事前事後の学習

【第1回】

①事前学修課題：データベースとは何か。自分なりに定義してみよ。

②事後学修課題：自身の情報活動の中から適当なデータセットを想定し、データモデリングしてみよ。

【第2回】

①事前学修課題：EXCELのワークシートにおけるデータにはどのような種類があるか、調べてみよ。

②事後学修課題：事前学習で調べたデータの各タイプについて、その内部表現はどのようになっているか、調べてみよ。

【第3回】

①事前学修課題：世の中にあるデータベースを具体的に挙げ、誰がどのような目的でそれを作ったか、調べてみよ。

②事後学修課題：データベースの目的とは何か。一般的な解答を記してみよ。

【第4回】

①事前学修課題：データベースは表計算ソフトと何が違うのか。説明してみよ。

②事後学修課題：リレーショナルデータベースの「正規化」についての専門的な解説を探して読んでみよ。

【第5回】

①事前学修課題：一人で使うデータベースと多人数で使うデータベースは何が違うか。考えてみよ。

②事後学修課題：データベースがマルチユーザになるために必要な機能を整理し、まとめてみよ。

【第6回】

①事前学修課題：銀行の預金口座を管理しているデータベースに起こりうる事故とはどのようなものが考えられるか。

②事後学修課題：現行の預金口座を管理しているデータベースに起こりうる、最悪の事態とはどんな事態か。

【第7回】

①事前学修課題：「データベースはもっともクリティカルなシステムである」という言葉がある。この言葉の意味を考えてみよ。

②事後学修課題：あなたが、ある企業の基幹データベースを受注したとする。そのシステムの価格を見積もってみよ。

【第8回】

①事前学修課題：コンピュータネットワークの長所と短所を思いつく限り列挙してみよ。

②事後学修課題：分散データベースはどのようなところで必要とされるだろうか。考えてみよ。

【第9回】

①事前学修課題：SQLについて、手に入る資料で調査してみよ。

②事後学修課題：SQLをベースとした市販のDBMSをリストアップしてみよ。

【第10回】

①事前学修課題：SQLベースのフリーDBMS「My SQL」のマニュアルを一度見ておくこと。

②事後学修課題：「MY SQLユーザ会」のホームページを検索し、「MY SQLとは」の解説を一読せよ。

【第11回】

①事前学修課題：SQLの誕生と発展について、調べてみよ。

②事後学修課題：「SQL」という名前の意味と読みを調べてみよ。

【第12回】

①事前学修課題：My SQLマニュアルの「埋め込みSQL」の項を通読しておくこと。

②事後学修課題：データベースを利用するさまざまな立場のユーザと、そのユーザが利用するアプリケーションの関係について考えてみよ。

【第13回】

①事前学修課題：データベースのトラブル事例について、調査してくる。

②事後学修課題：トラブルとリスクの分類について、自分なりに整理する。

【第14回】

①事前学修課題：「ビッグデータ」という言葉について、その意味を調査、理解してくる。

②事後学修課題：データマイニングの応用分野について考えてみる。

【第15回】

①事前学修課題：過去のすべての授業をもう一度復習し、それらについての自身の考えをまとめてくること。

②事後学修課題：授業の内容すべてを深く理解すること。

課題に対するフィードバックの方法

講義中の口頭による質問やディスカッションにて理解度を計り、各自の理解を修正していく。

成績評価の方法・基準(方針)

平常の受講態度と数回のレポート課題の得点を合計して評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	レポート課題並びに平常点で評価する。	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	期末にレポート課題を課す。	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		
テキスト	Google Classroomにて資料のPPTXを配布し、これをテキストとする。		
参考書	翔泳社「MySQL徹底入門第4版」ISBN978-4-7981-6148-8 等		
履修条件・他の科目との関連	特になし		

授業コード	80002901	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	経営情報特論				
シラバス執筆(全員)	安高 真一郎				
シラバス執筆(主)	安高 真一郎				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

今日の社会において、情報は必要不可欠な要素となっており、経営学が対象とする分野においても、情報の管理能力、活用能力が必要不可欠となっている。本講義では、情報技術や通信技術の発展が、経営活動にどのように貢献し、浸透していったかを概観し、どのような経営情報システムを構築し、展開することで、経営情報を管理・活用しているかについて講述する。

到達目標

1. コンピュータとネットワークの発展が、経営情報システムの進展に与えた影響を理解し、経営情報を管理・活用できる能力が養われることを到達目標とする。

授業計画

- 【第1回】 ガイダンス
- 【第2回】 情報化社会における企業経営
- 【第3回】 経営情報システムの発展
- 【第4回】 経営情報システムの設計・開発
- 【第5回】 生産管理システム
- 【第6回】 在庫管理システム
- 【第7回】 物流における経営情報
- 【第8回】 情報通信技術とビジネス・プロセス革新
- 【第9回】 全体最適のための理論
- 【第10回】 意思決定を支援する応用ソフトウェア
- 【第11回】 経営と情報とAI
- 【第12回】 情報通信技術と組織コミュニケーション
- 【第13回】 システムの評価と改善
- 【第14回】 経営情報とイノベーション
- 【第15回】 まとめ

事前事後の学習

次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。
配布資料を見直し、演習問題を解きなおす。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に返却し、解説を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

※欠席6回以上でK評価

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	積極的な参加(発言等)、授業内演習の出来具合	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	課題の完成度	1
その他	0		

テキスト	プリントを配布する。
参考書	必要に応じて、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	情報技術や情報の科目に興味があることが望ましい。

授業コード	80003001	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	特別研究 I				
シラバス執筆(全員)	植松 康祐				
シラバス執筆(主)	植松 康祐				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

目標とする修士論文を作成するための基礎的な研究プロセスを養う。先行研究の収集と目的とする研究周辺状況を理解すると共に調査する。

到達目標

1. 研究論文としての基礎を作る。
2. 目的のテーマを探求する。
3. 有効な仮説の設定を行う。

授業計画

1. 事前に調査した題材に関して、議論を行い、テーマに関する理解を深めてゆく。
2. そのテーマから派生する事象に関する議論を行い、新しい研究テーマとなり得るかを検討する。
3. 自分なりの仮説を設定して、その仮説の立証が可能であるかを検討する。
4. 模擬的な修士論文の作成を試みる。

事前事後の学習

毎回の課題に対しての報告を行い、事後には更なる発展を検討する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表やレポートに関して、必ずコメントをつけてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

調査内容や報告書によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	毎回の報告内容で評価を行う	1, 2, 3
授業外での評価	35	事前・事後の報告書进行评估する	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	特に指定しない。
参考書	講義中に示す。
履修条件・他の科目との関連	研究調査特論を必ず受けていること。

授業コード	80003101	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	特別研究Ⅱ				
シラバス執筆(全員)	植松 康祐				
シラバス執筆(主)	植松 康祐				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

修士論文作成を目指して、テーマを絞る。先行研究を踏まえて、自分独自のオリジナリティ性を論文の中で表現する。

到達目標

1. 先行研究などのデータを蓄積する。
2. 有効な仮説の設定を行う。
3. 仮説の立証により、独自性を出す。

授業計画

1. 事前に調査した題材に関して、議論を行い、テーマに関しての理解を深めてゆく。
2. そのテーマから派生する事象に関しての議論を行い、新しい研究テーマとなり得るかを検討する。
3. 自分なりの仮説を設定して、その仮説の立証が可能であるかを検討する。
4. 修士論文の完成を目指す。

事前事後の学習

毎回の課題に対しての報告を行い、事後には更なる発展を検討する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表やレポートに関して、必ずコメントをつけてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

調査内容や報告書によって評価する。最終的には、修士論文発表会で評価される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	毎回の報告内容で評価を行う	1, 2, 3
授業外での評価	35	事前・事後の報告書の評価する	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	修士論文を評価する	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	特に指定しない。
参考書	講義中に示す。
履修条件・他の科目との関連	研究調査特論と特別研究Ⅰを必ず受けていること。

授業コード	80003104	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	特別研究Ⅱ				
シラバス執筆(全員)	安達 康生				
シラバス執筆(主)	安達 康生				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

修士論文作成を目指して、テーマを絞る。先行研究を踏まえて、自分独自のオリジナリティ性を論文の中で表現する。

到達目標

1. 先行研究などのデータを蓄積する。
2. 有効な仮説の設定を行う。
3. 仮説の立証により、独自性を出す。

授業計画

1. 事前に調査した題材に関して、議論を行い、テーマに関しての理解を深めてゆく。
2. そのテーマから派生する事象に関しての議論を行い、新しい研究テーマとなり得るかを検討する。
3. 自分なりの仮説を設定して、その仮説の立証が可能であるかを検討する。
4. 修士論文の完成を目指す。

事前事後の学習

毎回の課題に対しての報告を行い、事後には更なる発展を検討する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表やレポートに関して、必ずコメントをつけてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

調査内容や報告書によって評価する。最終的には、修士論文発表会で評価される。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	毎回の報告内容で評価を行う	1, 2, 3
授業外での評価	35	事前・事後の報告書の評価する	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	修士論文を評価する	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	特に指定しない。
参考書	講義中に示す。
履修条件・他の科目との関連	研究調査特論と特別研究Ⅰを必ず受けていること。

授業コード	80005701	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	国際金融特殊研究				
シラバス執筆(全員)	植松 康祐				
シラバス執筆(主)	植松 康祐				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

国際金融市場で扱われている為替システムと証券システムを理解することが重要である。ITの発展により、金融市場はより複雑化している。その問題点にも触れる。また、現代金融理論 (MMT) についても議論を深める。

到達目標

1. それぞれの制度やシステムの理解
2. それぞれの問題点と解決策
3. 新しい制度に対する理解と問題点の整理

授業計画

1. 商品市場と資本市場
2. 時間、リスクとリターン
3. 証券価格と評価
4. 現物市場と先物市場
5. ポートフォリオ理論
6. 確率と確率過程
7. 資産価値の確率過程
8. マーチンゲールの導入
9. 期待効用とポートフォリオ選択
10. CAPM
11. 確率優越
12. 平均・分散モデル
13. 参考論文の講読 (1)
14. 参考論文の講読 (2)
15. 参考論文の講読 (3)
16. 線形因子モデルと裁定評価理論
17. APT
18. CAPMとAPTとの比較
19. APTの検証
20. 派生証券の裁定評価
21. ヨーロッパ型コールオプション
22. アメリカ型コールオプション
23. 複合オプション
24. 先物オプション
25. 割引債券の評価モデル
26. 系時的な消費・資産選択モデル
27. 均衡価格の確率過程と取引戦略
28. 現代金融理論 (MMT) の現状
29. 参考論文の講読 (4)
30. 参考論文の講読 (5)

事前事後の学習

項目の内容を事前にネットや書物で予備知識をいれてくること。また、議論となった問題点をまとめること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義の中で、報告します。

成績評価の方法・基準(方針)

講義を受ける準備、報告を重視します。また、その後の問題点の議論も評価対象とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	事前に調査した内容の質を評価します。	1, 2, 3
授業外での評価	50	問題点となった議論をまとめることを評価します。	4
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		
テキスト	テキストは使わず、各項目の内容を事前にネットから調査する。		
参考書	追って通知します。		
履修条件・他の科目との関連	経営学の知識と経営科学の知識が必要である。		

授業コード	80005801	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	会計政策特殊研究				
シラバス執筆(全員)	市川 直樹				
シラバス執筆(主)	市川 直樹				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

複数の会計基準に関する、認識と測定の会計論点を整理し、考究する。

到達目標

1. 会計論点について、その会計的問題解決方法をマスターすること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 認識と測定の概念フレームワーク (1) : 目的
3. 認識と測定の概念フレームワーク (2) : 構成要素
4. 認識と測定の概念フレームワーク (3) : 認識
5. 認識と測定の概念フレームワーク (4) : 測定 (i)
6. 認識と測定の概念フレームワーク (5) : 測定 (ii)
7. 認識と測定の概念フレームワーク (6) : 測定 (iii)
8. 資産会計 (1) : 定義
9. 資産会計 (2) : 分類
10. 資産会計 (3) : 構成要素の認識
11. 資産会計 (4) : 構成要素の測定
12. 資産会計 (5) : 構成要素の表示
13. 資産の論点整理 (1) : 全体
14. 資産の論点整理 (2) : 各論
15. 前期まとめ
16. 後期ガイダンス
17. 負債会計 (1) : 定義
18. 負債会計 (2) : 分類
19. 負債会計 (3) : 認識と測定
20. 負債の論点整理 (1) : 全体
21. 負債の論点整理 (2) : 各論
22. 損益の会計 (1) : 定義
23. 損益の会計 (2) : 区分
24. 損益の会計 (3) : 認識
25. 損益の論点整理
26. 連結会計 (1) : エンティティ
27. 連結会計 (2) : 連結貸借対照表の作り方 (i)
28. 連結会計 (3) : 連結損益計算書の作り方 (ii)
29. 連結会計の論点整理
30. 後期総まとめ

事前事後の学習

授業 (1回につき2時間として計算) と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
授業内で解説された項目についてノート整理を行うこと

課題に対するフィードバックの方法

個別に返却し、解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内報告と課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業内報告	1
授業外での評価	60	課題	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		

その他	0		
テキスト	プリントを配布する。		
参考書	必要に応じて文献を紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	会計学の基礎知識と会計関連科目を履修していること。		

授業コード	80005901	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	国際会計特殊研究				
シラバス執筆(全員)	市川 直樹				
シラバス執筆(主)	市川 直樹				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

会計基準とは、財務諸表を作成するルールです。しかし、現在のところ、会計基準は国際的に統一されていないということが現状です。日本の会社は日本で認められている会計基準の中から会計基準を選択することができます。日本の会計基準は、従来、米国会計基準や国際会計基準と大きな差異があったが、国際会計基準を収斂する作業が続き、これによって差異が小さくなってきている。しかし、細目や表示科目などについて差異があり、別の会計基準によって作成された財務諸表を分析する場合、財務諸表の数値などをそのまま用いて分析することはできず、確認することが必要となるというのが現状です。

日本の上場企業で選択できる会計基準は、日本の会計基準、米国会計基準、国際会計基準（IFRS）、および修正国際基準（JMIS）の4つの会計基準です。「日本会計基準」は、「企業会計原則」および2001年からは企業会計基準委員会（ASBJ）が設定した会計基準を合わせたものが採用されています。米国会計基準は、米国財務会計基準審議会（FASB）が発行する財務会計基準書（SFAS）、FASB解釈指針（FIN）などから構成されています。国際会計基準（IFRS）は国際会計基準審議会が作成した会計基準です。「J-IFRS」は、日本会計基準とIFRSの間に位置付けられた内容で、2016年3月期末より適用されています。IFRSの内容を、日本国内の経済状況などに合わせて調整した会計基準です。

国際会計特殊研究では、日本の会計基準、米国会計基準、国際会計基準（IFRS）の3つの会計基準を考察し、基本的な考え方や手続き、および具体的な会計処理について検討します。日本の会計基準と比較して、自分なりに検討した結果をレポートにまとめて提出してください。

到達目標

- ①日本の会計基準と比較して、国際会計基準や米国会計基準との違いを明らかにできること。
- ②会計基準の違いについて背景や原因を明らかにできること。
- ③それぞれの基準について理解し、批判的な意見や肯定的な意見などの自分の意見を述べ、その理由を明らかにできること。

授業計画

1. ガイダンス
2. 国際会計基準審議会（IASB）概念フレームワーク 財務報告の目的
3. IASB概念フレームワーク 有用な財務情報の質的特性
4. IASB概念フレームワーク 財務諸表及び報告企業
5. IASB概念フレームワーク 財務諸表の構成要素
6. IASB概念フレームワーク 認識及び認識の中止
7. IASB概念フレームワーク 測定
8. IASB概念フレームワーク 表示および開示
9. IASB概念フレームワーク 資本及び資本維持の概念
10. 国際会計基準（IFRS）とは
11. IFRS 収益認識基準（売上計上基準）
12. IFRS のれん
13. IFRS 研究開発費
14. IFRS 評価基準
15. 総括
16. 後期ガイダンス
17. FASB（財務会計基準審議会）財務会計の概念フレームワーク 財務報告の目的
18. FASB財務会計の概念フレームワーク 会計情報の質的特性
19. FASB財務会計の概念フレームワーク 財務諸表の構成要素
20. FASB財務会計の概念フレームワーク 財務諸表における認識と測定
21. 米国会計基準 のれんの処理
22. 米国会計基準 退職給付
23. 米国会計基準 有価証券評価
24. 米国会計基準 新株発行費
25. 米国会計基準 連結の範囲
26. 米国会計基準 デリバティブとヘッジ会計
27. 米国会計基準 棚卸資産の評価
28. 米国会計基準 減損の認識と測定 表示区分
29. 米国会計基準 キャッシュフロー計算書における売買目的有価証券の購入・売却、支払配当金、支払法人税
30. 総括

事前事後の学習

- 事前学習 Moodleから配布される資料を一読し、議論できるように調べておいてください。
- 事後学習 授業での議論を整理し、自分なりの意見をレポートにまとめ、提出してください。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業で解説します。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内報告と課題によって評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	意見や報告などの言動によって評価します。	1, 2
授業外での評価	60	レポート課題	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト

プリントを配布します。

参考書

必要に応じて文献を紹介します。

履修条件・他の科目との関連

学部程度の会計学の基礎知識は持っていることを前提として授業を行います。それなりの知識を持って授業に臨んでください。

授業コード	80006001	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	経営科学特殊研究				
シラバス執筆(全員)	植松 康祐				
シラバス執筆(主)	植松 康祐				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

経営科学は、経営活動に必要な科学的な手法の理解である。特に、数学的なツールによるものが多く、予備知識を必要とする。科学的な手法の原理を理解し、どのような分野で活用されているかを調査することを目的とする。

到達目標

1. 各分野での手法の理解
2. 実際の活用領域の現状
3. 新たな問題点の発見

授業計画

1. 線形計画法
2. 非線形計画法
3. 動的計画法
4. PERT
5. クリティカルパス分析
6. 施設配置問題
7. 巡回セールスマン問題
8. AHP法
9. AHP法の応用
10. スケジューリング問題
11. ネットワーク理論
12. ネットワーク理論の応用
13. 参考論文の講読（1）
14. 参考論文の講読（2）
15. 参考論文の講読（3）
16. 確率概論
17. 確率過程と数学モデル
18. 在庫管理問題
19. システムの信頼性解析
20. システムの更新問題
21. システムの最適化
22. ファジイ理論
23. ファジイ推論の応用
24. ファジイ制御の応用
25. 品質管理に関する統計手法
26. 生産管理に関する統計手法
27. 物流システムのモデル化と最適化
28. 参考論文の講読（4）
29. 参考論文の講読（5）
30. 参考論文の講読（6）

事前事後の学習

毎回の課題を事前に、ネットや文献にて確認してくること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義の中で、報告します。

成績評価の方法・基準(方針)

予習を重視します。また、事後はその手法が実行できるかを評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	事前に調査した内容をどの程度理解しているかを判断する。	1, 2
授業外での評価	50	それらの手法を理解して、新しい問題にチャレンジできるかを評価する。	3

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	プリントを配布する		
------	-----------	--	--

参考書	追って通知します。		
-----	-----------	--	--

履修条件・他の科目との関連	経営統計学と数学的な知識が必要です。		
---------------	--------------------	--	--

授業コード	80006101	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	OR特殊研究				
シラバス執筆(全員)	韓 尚秀				
シラバス執筆(主)	韓 尚秀				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

ある問題に直面した人間は、直感や経験に頼って問題を分析する傾向が強く、円滑な解決に至らないときが多い。問題を理論や実証によって体系的に分析して不変の解決策を提案する必要がある。本講義では、人間の問題解決プロセスと科学的なものを比較しながら学び、ビジネスの場で指導力を発揮できる意思決定能力・知識・技能を身につけることを目標とする。具体的には、経営科学に関する種々の問題を取り上げ、モデリングし、代表的な科学的問題解決手法を勉強した後、その効率性と限界性を同時に体験させる。つまり、現実問題とモデルには隔たりがありうる。そのモデル上で求められた解決策に基づいて現実問題を解決しないといけない人間は、最も大変な立場に置かれていることを認識させ、柔軟に問題を解決するソフト科学の成果や試みを学習する。

到達目標

- ① 問題のモデル化ができる。
- ② モデルに対する分析ができる。
- ③ 分析した結果で問題を解決できる。

授業計画

【第1回】 テーマ：講義紹介 内容・方法：講義の概要を紹介し、授業の注意点・方針などを知らせる。
【第2回】 テーマ：ORとその誕生 内容・方法：OR誕生の背景、歴史を紹介する。同時にORが応用された諸問題を取り上げ、従来の解決手法の概略を勉強講義する。
【第3回】 テーマ：線形計画法（モデリング） 内容・方法：生産問題と栄養問題を取り上げ、問題解決のためのモデリング、定式化について講義する。
【第4回】 テーマ：LPの解法（グラフ） 内容・方法：解決すべき問題のモデリング、定式化された簡略モデルをエクセルのGraphを用い解く。さらに、simplex Methodとの比較しながら、手法の原理を探る。
【第5回】 テーマ：LPとソルバーの利用法 内容・方法：解決すべき問題のモデリング、定式化された簡略モデルをエクセルのSolverを用い解く。さらに、simplex Methodとの比較しながら、手法の原理を探る。
【第6回】 テーマ：グラフ理論とPERT 内容・方法：典型的なプロジェクトスケジューリング問題を取り上げ、エクセルのグラフを用い解く。
【第7回】 テーマ：PERTとソルバーの利用法 内容・方法：典型的なプロジェクトスケジューリング問題を取り上げ、エクセルのSolverを用い解く。
【第8回】 テーマ：輸送型問題I 内容・方法：典型的な輸送型問題を取り上げ、提案されている手法の基本原則について講義する。
【第9回】 テーマ：輸送型問題II 内容・方法：典型的な輸送型問題を取り上げ、提案されている手法の基本原則について講義する。
【第10回】 テーマ：輸送型問題とソルバーの利用法 内容・方法：典型的な輸送型問題を取り上げ、エクセルのSolverを用い解く。
【第11回】 テーマ：最大流問題と最短経路問題 内容・方法：典型的な最大流問題と最短経路問題を取り上げ、提案されている手法の基本原則について講義する。
【第12回】 テーマ：意思決定I 内容・方法：典型的な意思決定問題を取り上げ、提案されている手法の基本原則について講義する。
【第13回】 テーマ：意思決定II 内容・方法：典型的な意思決定問題を取り上げ、提案されている手法の基本原則について講義する。
【第14回】 テーマ：ゲーム理論 内容・方法：典型的なゲーム理論を取り上げ、提案されている手法の基本原則について講義する。
【第15回】

テーマ：まとめ
 内容・方法：まとめ。
 【第16回】
 テーマ：AHP
 内容・方法：階層意思決定法理論を取り上げ、提案されている手法の基本原理について講義する。
 【第17回】
 テーマ：DEA
 内容・方法：包絡分析法理論を取り上げ、提案されている手法の基本原理について講義する。
 【第18回】
 テーマ：ANP
 内容・方法：ネットワーク分析法を取り上げ、問題解決のためのモデリング、定式化について講義する。
 【第19回】
 テーマ：スケジューリング
 内容・方法：解決すべき問題のモデリング、定式化された簡略モデルをエクセルのGraphを用い解く。さらに、simplex Methodとの比較しながら、手法の原理を探る。
 【第20回】
 テーマ：ファジィ理論I
 内容・方法：不確実性理論を取り上げ、曖昧さと確率にもとづく手法を原理を探る。
 【第21回】
 テーマ：ファジィ理論II
 内容・方法：不確実性理論を取り上げ、曖昧さと確率にもとづく手法を原理を探る。
 【第22回】
 テーマ：リスク付きPERTとソルバーの利用法
 内容・方法：典型的なリスク付きプロジェクトスケジューリング問題を取り上げ、エクセルのSolverを用い解く。
 【第23回】
 テーマ：遺伝アルゴリズムI
 内容・方法：典型的な遺伝アルゴリズムを取り上げ、提案されている手法の基本原理について講義する。
 【第24回】
 テーマ：遺伝アルゴリズムII
 内容・方法：典型的な遺伝アルゴリズムを取り上げ、提案されている手法の基本原理について講義する。
 【第25回】
 テーマ：SCM
 内容・方法：物流問題を取り上げ、サプライチェーンの概念と管理手法を講義する。
 【第26回】
 テーマ：MRP
 内容・方法：典型的な最大流問題と最短経路問題を取り上げ、提案されている手法の基本原理について講義する。
 【第27回】
 テーマ：専門書購読I
 内容・方法：講義した内容に関する洋書を輪講形式で読んで理解を深める。
 【第28回】
 テーマ：専門書購読II
 内容・方法：講義した内容に関する洋書を輪講形式で読んで理解を深める。
 【第29回】
 テーマ：発表
 内容・方法：専門書購読で割り当てられた部分を整理し、発表する。
 【第30回】
 テーマ：まとめ
 内容・方法：まとめ。

事前事後の学習

- 【第1回】
 ①事前学修課題：講義概要を予め読んでおくこと。
 ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。
 【第2回】
 ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
 ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。
 【第3回】
 ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
 ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。
 【第4回】
 ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
 ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。
 【第5回】
 ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
 ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。
 【第6回】
 ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
 ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。
 【第7回】
 ①事前学修課題：前回の授業内容を復習しておくこと。
 ②事後学修課題：授業中に指示された課題を次回までに提出すること。
 【第8回】

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	平常点	1, 2, 3
授業外での評価	20	レポート点	2, 3
定期試験	0	なし	なし
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート点	1, 3
その他	0	なし	なし

テキスト	経営工学のエッセンス?問題解決へのアプローチ/韓 尚秀(共著)/朝倉書店/2300/978-4-254-27020-4
参考書	『Basic 経営科学』 西田俊夫著 現代数学社 2,678円
履修条件・他の科目との関連	修士課程の経営科学関連科目を受講してほしい。

授業コード	80006301	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	計算機科学特殊研究				
シラバス執筆(全員)	安高 真一郎				
シラバス執筆(主)	安高 真一郎				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

次世代スーパーコンピュータの驚異的な発達、パソコンにおける並列処理技術の急速な進展、高機能携帯電話の拡大及びクラウドコンピューティングなど、最近の先端的な研究開発動向を含め、計算機ハードウェア、基盤ソフトウェア、並列処理技術などに関する最新の学術研究報告について輪読・討論する。

到達目標

1. 上記にあげた高度専門技術を習熟して具体的な応用システムの構築を目標とする。

授業計画

1. スーパーコンピュータを含む計算機アーキテクチャー(1)
2. 「スーパーコンピュータを含む計算機アーキテクチャー(1)」の課題演習
3. スーパーコンピュータを含む計算機アーキテクチャー(2)
4. 「スーパーコンピュータを含む計算機アーキテクチャー(2)」の課題演習
5. スーパーコンピュータを含む計算機アーキテクチャー(3)
6. 「スーパーコンピュータを含む計算機アーキテクチャー(3)」の課題演習
7. モバイル機器を含む次世代OS技術(1)
8. 「モバイル機器を含む次世代OS技術(1)」の課題演習
9. モバイル機器を含む次世代OS技術(2)
10. 「モバイル機器を含む次世代OS技術(2)」の課題演習
11. モバイル機器を含む次世代OS技術(3)
12. 「モバイル機器を含む次世代OS技術(3)」の課題演習
13. 高度な並列分散処理システムと言語処理系(1)
14. 「高度な並列分散処理システムと言語処理系(1)」の課題演習
15. 高度な並列分散処理システムと言語処理系(2)
16. 「高度な並列分散処理システムと言語処理系(2)」の課題演習
17. 高度な並列分散処理システムと言語処理系(3)
18. 「高度な並列分散処理システムと言語処理系(3)」の課題演習
19. 計算機ネットワークシステムとそのソフトウェア技術(1)
20. 「計算機ネットワークシステムとそのソフトウェア技術(1)」の課題演習
21. 計算機ネットワークシステムとそのソフトウェア技術(2)
22. 「計算機ネットワークシステムとそのソフトウェア技術(2)」の課題演習
23. 計算機ネットワークシステムとそのソフトウェア技術(3)
24. 「計算機ネットワークシステムとそのソフトウェア技術(3)」の課題演習
25. プロセッサ-高性能化技術(1)
26. 「プロセッサ-高性能化技術(1)」の課題演習
27. プロセッサ-高性能化技術(2)
28. 「プロセッサ-高性能化技術(2)」の課題演習
29. プロセッサ-高性能化技術(3)
30. 「プロセッサ-高性能化技術(3)」の課題演習

事前事後の学習

毎回の研究指導時に与えられる課題に取り組む。

課題に対するフィードバックの方法

ゼミ内で個別に、またはメール等で対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

発表・討論における理解度と提出課題の完成度で判断

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	発表・討論における理解度	
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	30	受講者の理解度や習熟度、課題の完成度により評価。	
その他	0		
テキスト	論文等を印刷して配布する。 研究分野に応じ、テキストは個別に指定する。		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する		
履修条件・他の科目との関連	経営情報学や経営工学に興味を持つ学生が望ましい。		

授業コード	80006401	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	情報システム特殊研究				
シラバス執筆(全員)	岡本 容典				
シラバス執筆(主)	岡本 容典				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

情報システムに関する研究は、計算モデル、アルゴリズム理論、コンピュータ構成要素、ソフトウェア工学、データベース、ネットワーク、人工知能、認知科学など様々な分野に関連している。本講義では、情報システムの理論と実践の両面について最新の学術論文を題材として輪読し、討論する。

到達目標

1. 主要な研究論文誌を通じ、最新の技術動向について理解できる。

授業計画

1. 情報システム研究に関する最近の動向
2. 情報システム関連技術(1)
3. 情報システム関連技術(2)
4. 情報システム関連技術(3)
5. 日常生活行動コンピューティング(1)
6. 日常生活行動コンピューティング(2)
7. 日常生活行動コンピューティング(3)
8. 知的画像処理(1)
9. 知的画像処理(2)
10. 知的画像処理(3)
11. 生体情報解析(1)
12. 生体情報解析(2)
13. 生体情報解析(3)
14. 医用情報システム(1)
15. 医用情報システム(2)
16. 医用情報システム(3)
17. 形式概念分析(1)
18. 形式概念分析(2)
19. 形式概念分析(3)
20. テキストの可視化(1)
21. テキストの可視化(2)
22. テキストの可視化(3)
23. 人工知能(1)
24. 人工知能(2)
25. 人工知能(3)
26. Webインテリジェンス(1)
27. Webインテリジェンス(2)
28. Webインテリジェンス(3)
29. ソフトコンピューティングの応用(1)
30. ソフトコンピューティングの応用(2)

事前事後の学習

毎回の授業で課題を課すので、次回の授業時に提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内の課題については机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す通り、授業期間中に実施される課題と、全授業終了後に実施されるレポート試験の評価結果に基づき総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業期間中に実施される課題	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施されるレポート試験	1
その他	0		
テキスト	必要に応じてPDFプリントを配布する。		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	意欲的に取り組み、予習復習を行うこと。		

授業コード	80006501	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	外国文献特殊研究				
シラバス執筆(全員)	植松 康祐				
シラバス執筆(主)	植松 康祐				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

博士論文を作成に当たり、海外の参考文献の調査が必要となる。特に、英語での参考文献検索が重要となっている。ここでは英文で書かれた文献を理解することは当然必要であるが、その研究分野の元となる文献まで辿り、その研究の周辺までを理解することに重点を置く。

到達目標

1. 研究に必要な文献の検索方法を習得する。
2. 文献を評価し、ポイントを抽出できる。
3. 文献を評価し、文献の課題を特定できる。

授業計画

1. 博士論文執筆にあたり基本的な論文を調査し、購読する。その結果をレポートにまとめる。5件
2. 博士論文執筆にあたり、博士論文に関連のある論文を調査し、購読する。5件
3. 購読した文献のポイントをプレゼンテーションする。

事前事後の学習

文献読解を今後の研究の参考とする。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回の報告を評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	毎回の報告を評価します。	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	レポート内容を評価	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	特にテキストは指定しない。文献を検索して、それを課題とする。
参考書	講義中に指示します。
履修条件・他の科目との関連	成果を専門研究演習につなげる。

授業コード	80006601	授業形態		実務家教員	-
授業科目名	専門研究演習				
シラバス執筆(全員)	植松 康祐				
シラバス執筆(主)	植松 康祐				
開講年次	3年	開講期	前期、後期	単位数	12単位

授業の目的・概要

講義内容に含まれる課題に特に興味を持ち、博士論文のテーマとすることを希望する学生について、入学時より3年間、学会におけるこれまでの研究の概活、調査方法、研究方法の指導を行う。最終的に博士論文の執筆までを指導する。

到達目標

1. 博士論文の完成

授業計画

テーマに応じて、文献研究と実習研究の配分を設定する。メインには受講者が主体で授業計画などを進める。

事前事後の学習

次回のテーマについて、インターネット等で検索をしておく。
配布資料を見直し、演習問題を解きなおす。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に返却し、解説を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

平常点50%、レポート課題50%

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50		1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50		1
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	かなりの関連専門知識と語学能力を想定している